

令和 8 年 1 月 28 日

参議院議員 福島みづほ議員

秘書 石川様

1月19日付けで御依頼いただいた質問につきまして、以下のとおり回答いたします。

■柏崎刈羽原発6号機制御棒駆動機構の不具合の原因についての質問

柏崎刈羽原発6号機において2025年8月25日に生じた制御棒駆動機構の不具合により制御棒1本が引抜けなくなった原因について、東京電力が10月9日付で公表した資料には、「傷の原因を調べたところ、ラッチがボールナットにしっかり収まっていない状態で中空ピストンがガイドチューブ内を下降する際に、ローラーの動きが固く、ローラーがガイドチューブに引っかかったことによるものと判断」「制御棒が引抜けなくなった原因是その引っ掛けによるものと推定」との記載がある。2026年1月8日、参議院議員会館で行われたヒアリングの場で、原子力規制庁は、当該不具合については、日常検査においてこの記載内容に即した説明を受けたと述べた。

ところが、同日、時間をずらして行われた東京電力に対するヒアリングの場で東京電力は、ラッチが収まらなかった理由、ローラーの動きが固くなった理由を聞かれ、「スラッジ等によるもの」と回答した。スラッジ等は分解点検の際に見つかったという。この回答が、東京電力が10月9日付で公表した資料にある「分解点検の際に、加工時のバリやビニール片等も発見したが、いずれも今回の不具合を引き起こす要因にはなりえないと評価」との記載と矛盾することから、その点を質したが、「バリやビニール片等」とは別物と述べるだけで、明確な回答はなかった。スラッジ等が不具合の原因であるとの評価は実施した、とのことだったが、スラッジ等の量はどれほどか、それがどのように不具合をもたらしたのか、なぜ当該1本だけ不具合を起こしたのか、10月9日資料に記載がないのはなぜか、との質問に対し、その場では明確な回答はなかった。

規制庁とのヒアリングでこのことを伝えると、規制庁から「スラッジ等が原因との話は初めて聞いた」との回答があった。

制御棒駆動機構という安全上重要な機器の不具合の原因について、東京電力が、公表資料に書かれおらず、公表資料とも矛盾する説明を非常に不十分な形で市民に行っている一方で、規制当局が公表資料以上の説明を受けていないという状況が明らかになった。

制御棒駆動機構の不具合の原因について、スラッジ等の量はどれほどか、それがどのように不具合をもたらしたのか、なぜ当該1本だけが不具合を起こしたのか、10月9日資料に記載がないのはなぜか、という点を含め、東京電力から詳細な説明を受け、その内容を明らかにされたい。また、不具合の原因を評価した文書が別に存在するのであれば、これをすみやかに入手して公開されたい。

＜回答＞

- 現地の検査官からは、事業者から、令和7年8月25日に柏崎刈羽原子力発電所6号機で発生した制御棒駆動機構の不具合の原因については、「傷の原因を調べたところ、ラッチがボールナットにしっかり収まっていない状態で中空ピストンがガイドチューブ内を下降する際に、ローラーの動

きが固く、ローラーがガイドチューブに引っかかったことによるものと判断」「制御棒が引抜けなくなった原因是その引っ掛かりによるものと推定」と聞いております。併せて、ローラーの動きが固くなった原因についてスラッジの可能性は否定できないと報告があったとの連絡を受けております。いずれにせよ、原因是ローラーの動きが固くなったことであり、当該不具合には対応済みであるとの認識です。また、御質問のスラッジ等の量、不具合をもたらした経緯の詳細等については、当該機器の線量が高いことから更なる分解が困難であり、事業者からはこれ以上の調査が困難であるとの説明を現地検査官が受けております。

- 本件については、事業者が現地検査官に説明した内容や10月9日の資料に記載された内容以外で、新たな情報はありません。
- いずれにせよ原子力規制委員会では、原子力規制検査制度により、現地に常駐する検査官及び本庁の検査官が、事業者の原子力安全に係る保安活動を、原子炉の状態に応じて軽重をつけて監視しており、引き続き事業者が行う保安活動を原子力規制検査で確認してまいります。

問合せ先：
原子力規制委員会 原子力規制庁
原子力規制部 検査グループ実用炉監視部門
電話：03-5114-2262（直通）